

ヴェーダ

V E D A

地域の皆さん向けの広報誌

基本理念

- ・信頼される病院
- ・ころあたたまる病院
- ・地域に開かれた病院
- ・常に向上心をもって働く病院

基本方針

- ・患者中心の医療と権利の尊重
- ・高度・特殊医療、救急医療、へき地医療等の充実
- ・地域の医療、保健、福祉との連携推進
- ・患者サービスの向上と安心感の確保

糖尿病診療における地域連携の取り組み

—「出張糖尿病教室」を開催して—

内科担当部長 吉本 幸子

糖尿病あるいは糖尿病を強く疑われる人は1620万人といわれ、さらに増え続けています。糖尿病の患者さんの増加と自覚症状がないため放置されている状況は社会問題となっています。糖尿病は血糖が高い病気ですが、何の症状もないのに血管がやられ、失明や透析、下肢切断、あるいは脳梗塞や心筋梗塞を引き起こし、死亡や寝たきりの原因となります。この病気は生活習慣の改善が必要で、半分は患者さん自身が主治医で、病気について理解と実践が必要です。そのため当院では毎週水曜日の午後、当院に受診されておられる方、地域の診療所から紹介で来ていただいた方を対象に、糖尿病教室を行っています。



糖尿病は、市民、患者さん、診療所の先生方、市役所や保健所、そして小松市民病院の医療スタッフがみんな一体となって、予防や治療に取り組んでいかないと十分な効果をあげることができません。そこで今回、診療所の先生方のご協力を得て、小松市民病院までなかなか来られない方、診療所に通う患者さんとそのご家族、知り合い、近所にお住まいの方を対象に、診察終了後の待合室を会場に、午後7時から8時までの1時間、出張糖尿病教室を行いました。講師は本院より出向、糖尿病療養指導士を主軸に管理栄養士、看護師、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、歯科衛生士、糖尿病専門医、20数名が交代で担当しました。昨年10月から3月まで、市内11ヶ所の診療所に出向き、20名から70名くら

いが集い、熱心に一緒に学習しました。参加された地域の方や患者さんは糖尿病の怖さ、治療の大切さを認識され、小松市民病院の医療スタッフにとっても病院以外の医療現場を知るよい機会となりました。本院が地域の中核病院として、市民の方々の健康に寄与するため、診療所の先生方と手を組んで、これからも積極的に地域での活動を行いたいと思います。



がん治療について

小松市民病院は、南加賀地域の「地域がん診療連携拠点病院」として、手術、化学療法、放射線治療、緩和ケアに至るまで、トータルケアに取り組んでいます。

小松市民病院でのがん治療についてもっと知ってもらおうと、がんの説明を1階に掲示しました。わかりやすく説明していますので是非ごらん下さい。

また、普段、医師になかなか聞きにくいこともあると思います。質問のある場合は、1階地域医療連携室前に、質問箱を設置していますので、ご利用下さい。

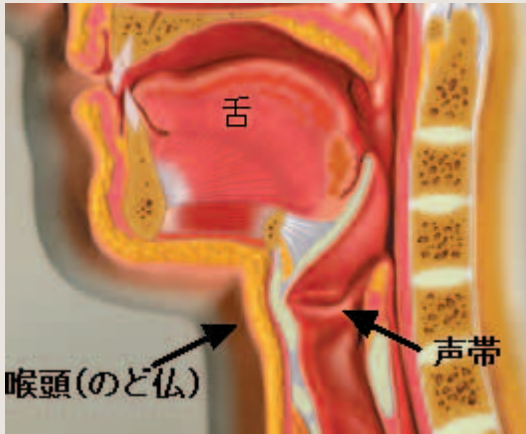


質問箱



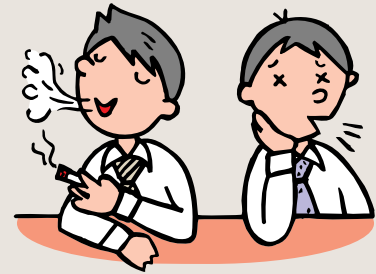
喉頭がんについて

■喉頭癌とは■



【図1】喉頭がんのできる場所

喉頭はいわゆる「のどぼとけ」に位置しており、内面が粘膜でおおわれた箱のようなもので、声を出す声帯があるところです。喉頭癌は喉頭に発生する悪性腫瘍で、その多くは声帯粘膜にできます。早期から声がれをきたすため早期発見がしやすいという特徴があります。喫煙者に多いので、喫煙者で声がれが続くようなら早めに受診することが重要です。喉頭癌の発生率は人口10万人に対し3人程度です。男女比は10：1で男性に圧倒的に多いという特徴があります。



■喉頭癌の症状■

喉頭癌の代表的な症状は、声がれと咽喉頭違和感(のどのイガイガ感)です。癌が進行すると血痰やのどの痛みが出現するようになり、さらに腫瘍が増大すると呼吸困難をきたすことがあります。



■喉頭癌の治療■

喉頭癌の主な治療法は、放射線療法と喉頭全摘出術、喉頭部分切除術などの外科療法になります。最近では従来、標準治療として喉頭全摘出術がおこなわれていた症例に対しても、放射線と多剤化学療法を組み合わせ治療をおこなうことで、喉頭の温存をはかる治療もおこなわれています。一般に放射線治療は6週間程度必要です。早期の声帯の癌はレーザー手術でも十分に直すことが可能です。最大の利点は治療が短期で済むこと、放射線被曝の問題がないことです。逆に最大の欠点は声が悪くなることですが、これは病状により様々です。





声門癌



レーザー切除後

当院では平成19年2月から放射線治療器を導入し、現在まで8例の喉頭癌患者さんで放射線治療を完了いたしました。いずれの患者さんも腫瘍は消失し経過観察中です。また早期の声門癌患者2例でレーザー手術を施行し現在まで再発を認めておりません。

topics
トピックス

「がん療養における食事とお口のケアの工夫」の研修会

平成20年12月4日南館4階で、1部は患者さん・ご家族を対象に、2部は訪問看護師、当院職員を対象に、少しでもおいしくお口から食べてもらうことを目的に研修会を開催しました。講師は杉歯科クリニック院長の杉 政和先生、済生会金沢病院の管理栄養士村田三恵先生、石川県在宅緩和ケア支援センター相談員の木村美代先生で、各講師の講義のほか当院の栄養給食科が調理した試食会や補助食品・口腔ケア用品の展示も行なわれました。また、2部の訪問看護師、当院職員を対象にした研修では、講義と口腔ケアの実技指導・演習も行われました。

参加者からは、試食のシャーベットが冷たくて美味しかった、補助食品は参考になったなどの声が聞かれました。特にトマトのシャーベットは意外性があり、概ね好評でありました。

この他、今後の研修内容については下記のような希望がありました。



各講師の講義

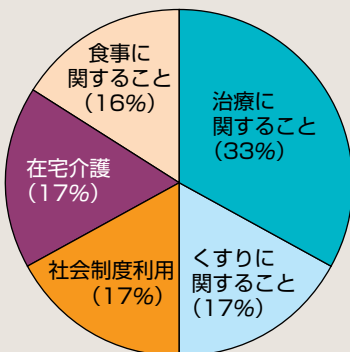


口腔ケア実技

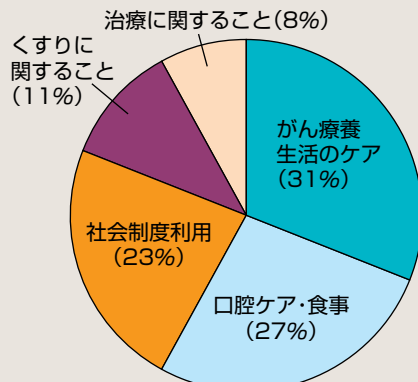


紹介された補助食品・口腔ケア用品

【患者さんからは】



【医療者からは】



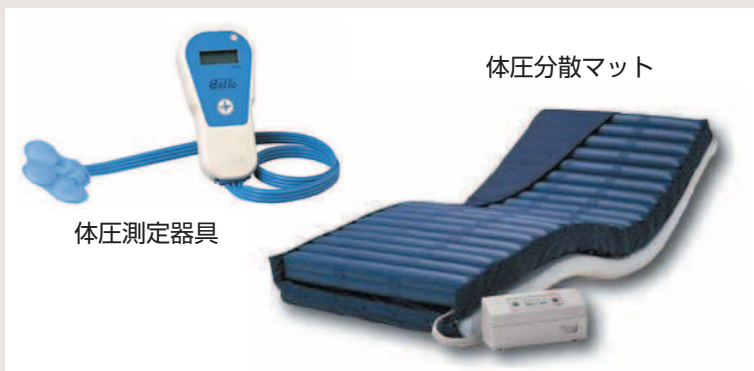
病院探検 褥瘡対策委員会の活動

褥瘡対策委員会では、入院時全患者さんに対して、褥瘡のアセスメント、予防から治療までを行っています。そして病棟では、看護師が褥瘡発生の危険性を評価し、適宜その患者さんにふさわしい褥瘡予防対策を実施し、褥瘡発生予防に努めています。

褥瘡委員会のメンバーは、医師・看護師・栄養士・検査技師で構成され、褥瘡の持ち込みあるいは院内の褥瘡発生の患者さんに回診を行って、褥瘡の診察・軟膏処置だけでなく、局所ケア、体圧分散マットの選択・栄養管理・検査結果などの対策を実践したり検討を行ったりして日々かばっています。



褥瘡対策委員会による褥瘡回診



体圧測定器具

体圧分散マット

■ どうして褥瘡になるの？

自分で寝返りを打てない人は、同じ姿勢を続けることで、自分自身の体重が長時間にわたって一定の部位にかかってしまいます。その体重の圧力で皮膚に血液が流れなくなって細胞が死に、褥瘡ができるのです。

その他、褥瘡の原因には、十分な食事を取れない事による栄養不足、やせ、皮膚の湿潤、皮膚のずれなどもあります。

病院探検 リハビリテーション科

リハビリテーション科では、理学療法や言語療法・摂食機能療法の治療を行なっています。

理学療法とは？

起きる・座る・立つ・歩くなどの動作は「基本動作」といい、日常生活の中で活動するために重要な動作です。この基本動作が十分でないと家庭に帰ったときに日常生活に支障をきたし、自立した生活が送れなくなります。

理学療法では、骨折などのけがや脳卒中、病気の治療・手術後の安静により手脚の筋力が弱くなった方等に対して運動機能や基本動作の回復のため運動療法をしています。また、腰や首、肩などの痛みを和らげるために温熱や電気、牽引を使用した治療も行っています。



言語療法・摂食機能療法とは？

「コミュニケーション」や「食」は人生の大きな楽しみです。言語療法では脳卒中などの病気で上手くコミュニケーションが取れなくなった方や、ことばの遅れ、発音が悪いお子さんなどに治療を行なっています。伝えられない、理解できないという苦手なところを何度も練習するだけでなく、他の人に言いたいことを伝える方法や、自分にとって理解しやすい方法を一緒に考えます。

上手く食べられない、飲み込めない方に対しては、飲み込む力をつける他に、むせずに食べられる姿勢や飲み込みやすい食品を選んで、安全に食べられるようにしています。



topics

トピックス

クリスマス花の展示
池坊小松支部青年部
生け花ボランティア

毎年恒例となっている池坊小松支部青年部・7人によるクリスマス花の生け込みが12月7日行われ、1週間にわたり1階ロビーに飾られました。

大作は「雪」をテーマに、白い網を巻いた土台にグロリオサやゴールドステックなど色鮮やかな花を、小品はバラやヒイラギなどに水引やラッピングペーパーを飾りつけるなど、クリスマスをイメージした作品が飾られました。

展示された花々を見入る患者さんや職員の姿が多く見られ、『素敵ですね』『毎年楽しみにしています』などの声が寄せられました。



topics

トピックス

キルトボランティアによる
ヒーリング・ハート・キルトの贈呈

12月11日にキルトリーダーズ石川から、「ヒーリング・ハート・キルト」の贈呈がありました。制作には約500人が携わり、その後、病院職員がキルティングビーや名前の記入を行い完成したものです。

キルトは縦135センチ、横180センチの大きさなど3枚で、緩和ケア病棟に飾られています。



topics

トピックス

緩和ケア研修会の開催
「緩和ケア病棟開設に向けて」

小松市民病院では、4月1日から担当の医師を配置して緩和ケア病棟がオープンします。全室個室で10床の病棟であり、4月からの円滑な病棟運営に向けて準備を行っています。



1月14日に「緩和ケア病棟の実際について」と題して、済生会金沢病院 外科診療部長 龍澤泰彦氏を講師に招いて研修会を開催しました。

研修会では、緩和ケア病棟での入退棟基準の流れや、病棟の特徴等について説明があり、実際に病棟を運営する際に大変参考となる内容の講演となりました。

topics

トピックス

医療安全研修会の開催

苦情・クレーム対応から医療安全と医療事故防止について考える事を目的に、損保ジャパンから講師を招いて院内研修会を開催しました。研修では医療現場でのコミュニケーションについて、病院内でまずは職員同士で必要なことを確実に伝えるルール作りをすること、患者・家族に正しく理解してもらうための工夫、苦情発生後のコミュニケーションについての対応ポイントを学びました。今後、研修を活かして業務を行っていききたいと思います。





小児科Q&A、ときどきA&Q

(けいれん・意識障害編) その1

小児科部長
上野 良樹

Q

「救急隊です。1歳の痙攣(けいれん)です。
現在おさまっています。搬送してもいいですか？」

A

救急隊に運ばれてきた翔ちゃん、顔色はすこし悪いですが静かに寝ています。お熱は39.2℃。お母さんも、ついさっきまで元気だったのにと気も動転。でも大丈夫、1歳くらいで、熱の上がりかけ、救急車がくるまでにおさまる5分以内の痙攣、痙攣後そのまま入眠、とそろえばまず、良性的熱性痙攣です。後遺症はありません。家族に子どもの頃、同じように熱性痙攣をおこした人がいるかもしれません。くせになることはありませんが、熱が出ると繰り返しやすい子もいます。日本小児神経学会が定めた予防法がありますので、いつでも相談してください。

Q

「救急隊です。昨日から熱があったようですが
全身痙攣あり、酸素投与しています。」

A

同じように熱にともなう痙攣でも重積といい止らないことがあります。病院についてもまだ痙攣がある時は、とにかく止めなければなりません。熱性痙攣でも長くつづくことはありますが、こういう場合は脳炎や髄膜炎の可能性があり。治療をしても重篤な後遺症を残すことがありますので、予防接種が最大の治療法です。ウイルスに対してはインフルエンザ、風疹、おたふくかぜなどのワクチンがあります。最近、細菌性髄膜炎をおこすインフルエンザ菌に対するワクチンもうてるようになりました。諸外国では劇的な発症予防効果がすでに確認されています。生後2ヵ月からの接種がもっとも有効ですので、小児科でご相談ください。

topics

トピックス

感謝の声、ありがとうございます。

多くの患者さんから、感謝の声や励ましの声をいただきました。このようなあたたかい声は職員に非常に大きな力を与えてくれます。

これからも、職員一同、患者中心の医療に取り組みますので、よろしくお願い致します。



topics

トピックス

当院における暴力に関する方針

最近、医療現場で働く職員に対する暴力が全国的に増加し問題となっています。当院でも平成19年に実施した院内でのアンケート調査では、回答した人の31%が過去1年間に暴力被害を受けた・受けそうになったと答えていました。

そこで他の患者さんや職員の安全を守るために「当院における暴力に関する方針」をお知らせします。皆様のご理解ご協力をお願いします。



編・集・後・記

3月に入りだんだんと暖かくなってきました。高速道路も値下げ(ETCを取り付けて)となり、どこへ出かけようかと心を躍らせています。しかし、道路や観光地は渋滞が予想されます。そんな時は、みんながお互い様と譲りあえば、より楽しい旅行となるのではと考えます。病院でも、同僚、他職種や患者さんなどと接するとき、お互い様と相手を思いやることで、もっとよい病院にしていきたいと思えます。



国民健康保険 小松市民病院

〒923-8560 石川県小松市向本折町ホ60
TEL(0761)22-7111(代) FAX(0761)21-7155
URL <http://www.hosp.komatsu.ishikawa.jp/>
E-mail cbsomu@city.komatsu.ishikawa.jp